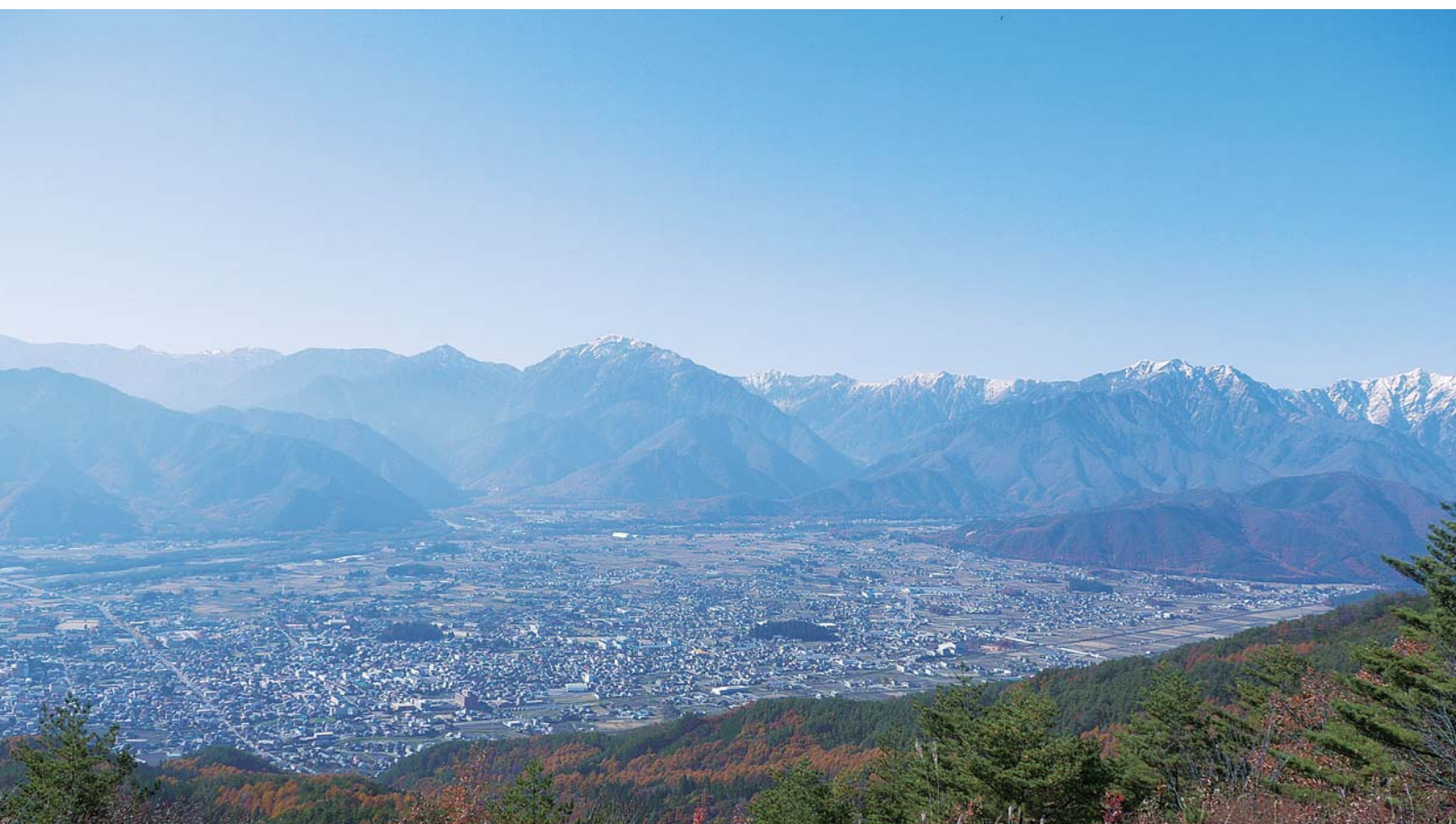


「大町の未来をつくる」

大町市内 4 校の中学生による地域学習の記録



近い将来、私たちがこの大町市をつくります。

みなさんは、大町市をどんなまちにしたいですか？

引き続き、私たち中学生にできる、私たち中学生にしかできない

『私たちの大町市』にできることを続けていきます！

——— 第一中学校 3 学年のレポートより

大町市の中学校

第一中学校 創立昭和 36 年

生徒数 275 名 家庭数 254 戸

学校教育目標

峻嶺に輝く一中生たれ

〔平成 28 年度 輝きの目標〕

「聴く、問う」からはじまる対話活動に

より問題を解決する生徒

いつでも、どこでも、だれにでも

あいさつする生徒

もくもくと汗を流してそうじをする生徒

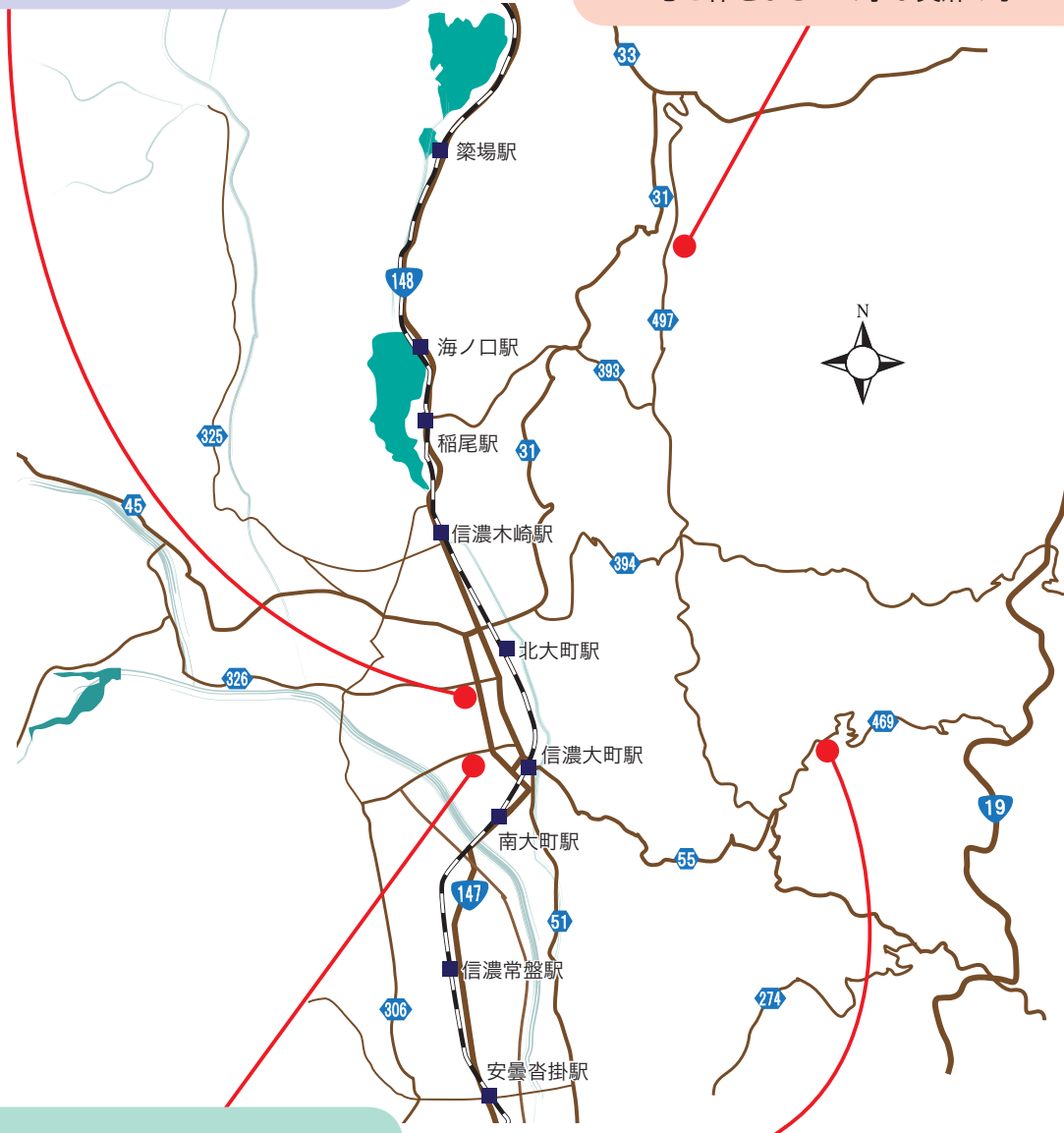
美麻小中学校 創立昭和 52 年

明治 6 年に建てられた 6 校が前身。統廃合を経て、昭和 52 年に現在の美麻小中学校の形になりました。

児童・生徒数 95 名 家庭数 77 戸

学校教育目標

心と体をひらいて学ぶ美麻の子



仁科台中学校 創立昭和 42 年

生徒数 417 名 家庭数 381 戸

学校教育目標

自主：勉強に魂を打ち込む生徒

友愛：礼儀に篤い生徒

根性：勤労に喜びを持ち、

健康・安全に気を配る生徒

八坂中学校 創立昭和 22 年

生徒数 34 名 家庭数 31 戸

学校教育目標

①やりぬく根性「たくましい子ども」

②さがし求める気迫「進んで学ぶ子ども」

③かわいがる心情「思いやりのある子ども」

はじめに

私たち「特定非営利活動法人ぐるったネットワーク大町」は、まちづくりに携わる市民活動のネットワークとして6年前に発足しました。大町の自然・歴史・文化の魅力を活かし、それを守り伝えている人々が活躍できる場をつくりながら、仕事起こしをしていこうと活動しています。

3年前、仁科台中学校の総合的な学習の時間にゲストティーチャーとして呼んでいただいたことから、今の中学生が熱心に大町のことを学び、大町の将来を考えていることを知りました。その後も継続して地域学習のお手伝いをするうちに、この素晴らしい取組みを、是非地域の皆様に紹介したいと思うようになり、この冊子の発行に至りました。

ここで育つ子ども達が、地域を学び、地域に誇りを持ってくれることは、私たち大人の共通の願いです。ご指導いただいている先生方に改めて敬意を表し感謝を申し上げます。

まちづくりに携わる地域の大人としても、ふるさとに寄せる子ども達の思いを受け止め、共に未来の大町をつくっていきたいと思います。その第一歩として、この冊子が子ども達と地域の皆様とをつなぐ役に立てば幸いです。

「大町の未来をつくる」発行によせて

特定非営利活動法人 ぐるったネットワーク大町
理事長 佐藤 悟

大町市の全中学校における2016年度地域学習の取り組みと成果が、「市民参加と協働のまちづくりフォーラム」で発表され、冊子として発行され多くの方々に知っていただけたということは、意義のあることであり大変嬉しく感じています。

中学生の皆さんが生まれたころは、21世紀を迎え新たな時代の幕あけでありましたが「混沌」という言葉で表現される時代でした。そんな時代に生まれた皆さんに、夢や希望をもって元気に成長してほしいと願い、一人一人に名前を付けたことでしょう。

地域の皆さんも、自分たちのまちは、自分たちでつくり育ていくという志をもって、国・県・市といった行政の皆さんや様々な方々と協働し、次代を担う皆さんに、かけがえのない故郷を残し、故郷に誇りを持って生きていってほしいと願い様々な活動をしてきてくれました。

「大町には何もない」と言われる方々もいます。たしかに都会のような派手さや楽しい場所は少ないかもしれませんが。でも想像してみてください。全国どこに行っても同じような「街」が本当に素晴らしい「まち」「故郷」なのではないでしょうか？

おじいちゃんおばあちゃんなどの先人達や、お父さん・お母さん、地域の皆さん、他の地域から大町に移り住んでくださった皆さんが、よりよい「まち」にしていこうと努力してきた活動や功績を、今回中学の地域学習ということで調査・研究を通して知り、提言や実際の活動も行っていたことは、本当に素晴らしいことなのです。

中学校を卒業すると進学や就職などでこの地域を離れていくこともあるでしょうが、今回の経験と「故郷大町」を誇りに、のびのびと生きていってください。

そして機会があったら「私たちがつくる 私たちの大町市」・「オンリーワンの故郷」を共創していきましょう。

地域に開かれた活力ある学校にご支援を

大町市教育長 荒井 今朝一

NPO 法人「ぐるったネットワーク大町」の皆様には、日頃から大町市の児童・生徒の活動に多大なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

少子高齢化の進展と予測を超える社会経済の変動により生活格差の拡大や価値観の多様化、情報化などが進み、子どもたちを取り巻く社会環境も急激に変化し、真に「地域に開かれた学校づくり」と「生きる力を身に付ける教育」が焦眉の課題となっております。

大町市では、こうした諸課題に積極的に対応すべく、学校支援体制の充実に努め、市内全小中学校でコミュニティスクール化へ向けた取り組みを進めており、ボランティア活動や地域の学校支援に期待を寄せております。子どもたちも少しずつ確かな力を身に付けてきており、共に願うところは「地域と共に生きる笑顔」であり、「生きる力の習得」です。

「ぐるったネットワーク大町」では、これまでも学校と連携しつつキャリア教育をはじめとした「地域を知り、地域を学ぶ活動」を積極的にご支援いただき、この度は市内中学校の諸活動を本冊子としてまとめていただきました。正に時宜を得た試みであり、改めて敬意と感謝を表する次第であります。

教育委員会といたしましては、今後も教職員をはじめ保護者、地域住民の皆様と一体となった協働の力により、開かれた学校づくりと地域教育の推進に努めてまいりますので、会員はじめ関係者の皆様には、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶いたします。

目次

市内4中学校紹介	2
はじめに	3
「大町の未来をつくる」発行によせて	3
地域に開かれた活力ある学校にご支援を	4
目次	5
第一中学校	
総合的な学習の時間の概要	6
3学年ふるさとプロジェクト	9
仁科台中学校	
総合的な学習の時間の概要	14
1学年仁科タイム	16
美麻小中学校	
総合的な学習の時間の概要	22
9年生美麻市民科	24
八坂中学校	
総合的な学習の時間の概要	30
全学年1日やさかの日	32
姉妹都市立川市との中学生サミット	38
大町市市民活動サポートセンターの紹介	39

※現行学習指導要領では、次の目標を掲げた「総合的な学習の時間」が位置づけられており、市内中学校では、この時間を使って地域学習に取り組んでいます。

○文部科学省が定める「総合的な学習の時間」の目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。（中学校学習指導要領より抜粋）

第一中学校 総合的な学習の時間の概要

I 総合的な学習の目標

- 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を育てる。
- 学び方やものの見方、考え方を身に付け、問題解決に生かす。
- 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考える力を育てる。

第一中学校の総合的な学習の目標

「自分の生き方を考える総合的な学習 ～「ふるさとと共に生きる」学習を通して～」

II 学習内容

総合的な学習の時間を大まかに「地域に学ぶ学習」と「自分の生き方を考える学習」ととらえる。

①地域に学ぶ学習

全体テーマ ふるさとと共に生きる

1 学年テーマ 大町を学ぶ（地域の人に教えてもらう）

育ってきた大町のことを調べ、新しい魅力を見つけたり、古くからの伝統に触れたりする中で、地域に生きる人たちの姿に出会い、「地域に生きること」を意識する。

2 学年テーマ 大町ではたらく（地域ではたらく人の思いを知る）

「はたらくこと」に対する学習を進め、自分の将来を意識する中で、職場体験学習を行い、地域ではたらく人々と共にはたらき、多くの人々に「支えられて生きている自分」を意識する。

3 学年テーマ 大町のために動く（地域の人のために何ができるか考える）

これまでお世話になってきた地域の抱える問題点について学び、地域のために何ができるかを考え、活動していく中で「地域に生きる自分」を意識する。

②自分の生き方を考える学習

1 学年テーマ いろいろな職業に出会う 職業講話 職業調べ

2 学年テーマ 自分の職業観を育てる 職場体験学習 体験実施職場の方のお話 マナー研修

3 学年テーマ 自分の進路を決定する 高校調べ 進路講話 高校体験入学 志願理由書の作成

III 学習方法

- ①学年をベースとして推進するが、学年としてのテーマを基本に据えながら進める。形態は学級ごと、テーマ別グループごと等、内容に応じたものとする。
- ②学習する内容、学習した内容、次回に向けての方向等を、毎時間用紙に記入し、ファイルに保存していく。できる限り3年間ファイルを共有していけるようにする。（ポートフォリオ化する）
- ③共働の学びを軸としたグループでの対話活動を中心に据え、課題を共有しながらすすめる。
- ④地域の人材バンク、商工会議所などのご協力をいただきながら、推進する。また、職場体験学習についてPTA（一中のキャリア教育を支える会）と連携しながら、体験職場、体験日数の確保などを行う。
- ⑤調査活動の意味づけを確実にし、調査が目的にならないようにする。
- ⑥学習したことをまとめ、全校（文化祭）や学年内などに発表、発信する機会を取る。また、学習の過程でできたもの、情報などを外部へ発信する。

大町市立第一中学校 3 学年

大町ふるさとプロジェクト 2016

自分たちを育ててくれた故郷（ふるさと）・大町の特徴や
課題について調べ、地域のためにできることを考え、実行する

3 学年の総合的な学習の時間

- 3 学年の総合的な学習の時間では、『自分を育ててくれた故郷（ふるさと）・大町の特徴や課題につ調べ、地域にできることを考え、実行しよう～大町ふるさとプロジェクト 2016～』をテーマに、中学生の自分が大町市のためにできることを考え、実行し、発信することを目的に活動している。
- 本年度は学習の過程を「ACT 1：大町を知る」「ACT 2：（大町のために）自分ができそうなことを探る」「ACT 3：自分ができるところをやる」の 3 つの ACT（Action）に分け、以下のような計画で進めた（下表参照）。

<学習計画>

ACT 1：大町を知る（大町市に対する自分たちの意識を知る）

学習内容
地元・大町の認知度を知る（アンケートによる実態把握）
大町の魅力と課題（アンケート結果をもとに、冊子『私たちの大町』などで調査）
大町の魅力と課題の発表
市民が考える大町の魅力と課題は？『大町の魅力と課題を語る会』（講演・座談会）
魅力と課題についてのまとめ
課題解決に向けて自分にできそうなことを考える（←グループ編成）

<学習計画>

ACT 2：自分ができそうなことを探る（調査・体験活動）

学習内容
課題解決に向けた活動計画作成（グループごと）
活動計画をもとにした地域活動の準備
地域活動
地域活動まとめ（自分ができそうなこと案を作成）
中間発表（文化祭）

<学習計画>

ACT 3：自分ができるところをやる（活動）

学習内容
『大町のためにできること』活動計画（調査活動を通して計画の立て直し）
『大町のためにできること』活動
地域活動
活動の振り返りと成果発表
学習のまとめ

まずＡＣＴ１では、自分たちの関心の有無についてアンケート調査の形で認知度をはかった。その結果、意外にも大町市について「あまりよく知らない」という現状に気付いた。そこで、あらためて魅力について、調べることにした。郷土資料などを用いて調査する中で、自分たちなりに大町市の魅力を再認識した。一方で課題については、多くが人口減少、商店街のシャッター通り化を挙げた。このことから、多くの生徒が大町市の課題は明確であると捉えている一方、魅力は複数あるとしており、これらの魅力を生かすことで課題を解決できたらと考え始めた。

そこで、自分たちが感じている魅力と市民の方の感じている魅力にどの程度、感じ方に開きがあるのかを知り、市民の方々の考えも知った上で、『大町市のためにできること』の活動はできないものかと、市内の様々な立場の方の考えを知るために、『大町市の魅力と課題を語る会』を開催し、行政、商業関係者、移住者、それぞれの立場から大町市の魅力と課題について感じていることを生の声としてお聞きした。客観的に大町市の魅力と課題を捉え直した結果、大町市についてさらに調査を進めながら、興味・関心の高い分野について共感する仲間グループを編成し、自分たちにできそうなことから始めることにした。（プロジェクトチームについては以下の『大町ふるさとプロジェクト活動チーム』参照）

ＡＣＴ２では課題解決に向け、チームごとに活動計画を作成。ＡＣＴ１では詳細まで踏み込めなかった情報収集や試作品の製作など、まずできることから活動してみようと、プロジェクトチームごとに試験的に活動を行った（各チームの活動については、次ページ以降の活動報告参照）。実践を振り返って、『今の自分が大町市のためにできること』とはどのようなことか、あらためて考え直し、各活動の改善・改良を加えた活動計画を立てた。

ＡＣＴ２での見直しを受け、ＡＣＴ３では、プロジェクトごと、それまでより精選した活動計画に沿って大町市のためにできることを実践してきた。まだ完結していないプロジェクトもあるが、これらのプロジェクトを通して、大町市の現状と将来に関心を持ち、地元・大町を大切にしたい気持ち、魅力いっぱいの大町市を維持したい気持ちを高めている。

大町ふるさとプロジェクト 活動チーム

①大町 PR チーム	目的：大町の今ある魅力を外部に PR する
活動内容例：	大町の魅力を調べる（調査活動） 大町の魅力を外部に発信する（発信活動）←パンフレット、HP、CM の制作
②参加協力チーム	目的：大町市に住む人のためにできる範囲のお手伝いをする
活動内容例：	市内各所で行われる各種イベントに自ら参加し、イベントスタッフなどとして、お手伝いをする
③地域づくりチーム	目的：地域のことを、住んでいる人や周りから来た人に聴き、さらに知る
活動内容例：	詳しい大町市内の地域マップづくりやポスター制作 商店街を明るくする活動をする（商店街の環境美化活動など）
④ボランティアチーム	目的：大町をよりよい町にするためにできることをする
活動内容例：	地域のゴミ拾いや、清掃活動
⑤魅力づくりチーム	目的：大町の新たな魅力を発見したり、創造したりする
活動内容例：	大町の魅力（特産品など）の作成 開発 名物に出来るものを考える、今あるものを魅力として再発見して発信する

大町 PR チーム活動報告

大町PRチームは、より多くの人に向けて大町の魅力を発信し、大町市を知ってもらおうと活動を行うチーム。大町市周辺の地域というより、より広範にアピールすることを目的にしている。広くPRするため、『ホームページ』『パンフレット』『CM』の3つの班に分かれて活動した。

①『ホームページ』班

試作として、商店街に関するホームページづくりに挑戦。ホームページの掲載するためのレイアウトや掲載する原稿の原案を制作した。本制作では大町市全体をPRするホームページを作成する予定であったが、商工会のホームページのブログ欄をお借りして、商店街を中心に自分たちが取材した店舗などを紹介していく。



②『パンフレット』班

ホームページ班と同じく、試作として商店街を紹介するパンフレットを制作。私たち中学生のオススメの店舗を中心に紹介。大町市の特産であるリンゴの形をしたパンフレットを制作した。本制作もリンゴの形はそのままに、内容を増量して制作している。



③『CM』班

同じく試作として、大町のおいしく美しい水と酒をテーマにCMを制作した。タブレットを活用して撮影し、テロップ、BGMを選択し、編集した。試作を参考に、焦点を絞った作品を制作中。



参加協力チーム活動報告

参加協力チームは、大町市内で行われる各種イベントに自ら参加することで、大町市に貢献しようというチーム。フェスティバルなどのイベントから神社の清掃まで幅広く活動する。参加者という立場だけではなく、時にはスタッフとしても参加させていただいた。

○竈神社の清掃

竈神社の祭りの準備のお手伝いとして、清掃作業を行った。境内の窓拭き、柱拭き、雑巾がけ、掃き掃除を中心に活動した。



○消防フェスタ

国営あずみの公園で行われた消防フェスタに参加。バルーンアートづくりや紙芝居など幼児向けのイベントのお手伝い、女性消防団の手伝いを行った。

○信濃大町秋の味覚まつり

扇沢駅で行われた味覚まつりで、特産物やお土産品の販売のお手伝い。観光客に商品や特産物の紹介とイベントの案内を行った。



○信濃大町まつり

商店街で観光客へのチラシの配布とお弁当の配膳などを行った。商店街の活性化につながればと、チラシを配布しながら、大町市の魅力をアピールした。



消防フェスタ (10月2日)
国営アルプスあずみの公園
大町・松川地区



信濃大町秋の味覚祭り (10月2日)
扇沢駅前



ぐるっとそば処スタンプラリー
(10月1日～11月30日)
市内の指定されたそば屋

地域づくりチーム活動報告

地域づくりチームは、自分たち自身が大町市のことをよく知り、地域の方々により大町の魅力を知ってもらうことを目標に活動を行うチーム。また、地域を支えている商店街を活性化させたいと考えたメンバーも集まっている。

同チームは、チーム内を『商店街の活性化』と『ポスターづくり』の2班に分けて活動している。

①『商店街の活性化』班

この班は、商店街を活性化させるために必要なことを考え、活動。活性化につなげるために自分たちができることとして、商店街の環境美化活動を実施した。商店街を一步奥に入ると、ゴミが散乱している場所もあり、そうした場所を無くそうと取り組んだ。汚れている場所の調査、商店街周辺のゴミ拾い作業、蜘蛛の巣払いなどの活動を行っている。



店舗横の路地



ポケットパーク



商店街のクモの巣払い

②『ポスター』班

この班では、大町市の魅力が詰まったポスターを作成し、掲示してもらうことで、大町市の魅力を知ってもらい、商店街などの集客力、観光客などの増加の手伝いが少しでもできればと考え、活動している。1枚のスペースの中にどんな魅力を盛り込むのかを話し合い、ポスターとしてまとめた。



ボランティアチーム活動報告

ボランティアチームは、様々な奉仕活動を行うことで大町市をよりよい町にすることを目的に活動するチーム。学校周辺や地域に出て、地域の方々と共に奉仕活動を行った。自分たちが普段、使用させてもらっている場所を中心に、主に清掃と環境美化活動を行っている。

○芝桜河川公園での草取り

下花見橋周辺の芝桜河川公園で、芝桜周辺の草取り作業を行いました。円形の芝桜の茂みに気をつけながら、芝桜周辺の雑草を草かきで除去した。



○学校周辺の環境整備作業

第一中学校の昇降口前は、市民の方が通行される場所でもあります。毎年、きれいな花を咲かせている花壇の片付けや、体育館内の整備作業などを行った。

○市立図書館の清掃

休日はもちろん、長期休業などで多くの一中生がお世話になっている図書館。一中生だけでなく、市民にとっても大切な施設の一つでもあります。感謝の気持ちを込めて、窓拭きを行った。

○西公園、西公園体育館

部活動および休日などで使用させていただいている西公園や隣接する施設のゴミ拾い作業や掃き掃除、窓拭き、体育館では雑巾がけなど清掃活動を行った。



5 2016年(平成28年)9月17日(土)

「地域のため」草取りボラ

大町 一中3年 白塩河川公園で

大町市の大町第一中学校(塩原雅由校長)3年生がこのほど、白塩河川公園で草取り

を行った。春に一面の花のじゅうたんになり、北アルプスの絶景が観光客の人気の立

をテーマに学ぶ。ボランティア活動や商店街活性化、特産品開発などの班に分かれて考

るボランティア団体「白塩河川公園愛護会(竹内英司会長・会員43人)」が管理を行

中学生たちは手作業で株の中や周りの草を丁寧に取り除いた。竹

「地域のため」草取りボランティア活動の様子。中学生たちは手作業で株の中や周りの草を丁寧に取り除いた。竹

2016年9月17日付 大系タイムス

魅力づくりチーム活動報告

魅力づくりチームは、大町市に今ある魅力を活用して、新たな魅力づくりに挑戦することで、新たな大町の魅力として発信し、大町を知ってもらえるよう活動するチーム。男女に分かれ、それぞれに得意分野を生かした班に分かれて活動している。

①男子チーム

男子チームでは、ACT 2で大町のおいしい水に着目し、市内各所にある男清水、女清水を調査。両水の飲み比べを行い、それぞれの特徴を紹介。そのまま水を味わったり、お茶、コーヒーなど男清水、女清水で入れての飲みくらべも行っている。



②女子チーム

女子チームでは、大町市の特産品や名産を使った新商品の開発に挑戦。雷鳥の里や松田牛乳、リンゴを使ったタルトづくりをはじめ、おざんざを使ったあんかけ、ベビースターラーメン風のおざんざのカレー風味などを試作し、改良を加えるなど、商品化を目標に開発した。



ヨーグルトタルト



雷鳥の里プリンりんごタルト

仁科台中学校 総合的な学習の時間の概要

仁科台中学校教育目標

「自主・友愛・根性」

1. 勉強に魂を打ち込む生徒
2. 礼儀に篤い生徒
3. 勤労に喜びをもつ生徒
4. 健康安全に気を配る生徒

仁科タイムの目標

「地域社会の人・もの・ことに主体的に働きかけることを通して、生きる力を育む」

主な学習活動

- ア 国際理解、情報、環境、福祉・健康、ボランティア
- イ 生徒の興味関心に基づく課題
- ウ 地域や学校の特色に応じた課題
- エ 職業や自己の将来



を横断的・総合的・探究的に
学習することを通して

- 課題発見・解決能力
- 多様な情報収集力
- 多様な発表の方法・発信力
- 主体的・能動的な思考力・判断力
- 言語により整理・分析する力
- 自己の生き方の自覚

の達成を目指す

◆継続型

総合的な学習の時間の趣旨を踏まえて学年内の講座制を整え、各自が講座を選択し体験活動等を行う。各学年で同一時間に実施。副担任の配置は学年内で調整する。（2学年は職場体験学習）

◆特活連携型

全校で同一時間に行う。
人権教育、健康教育（食育）、性教育、ごみゼロ運動など
学習内容に応じて全校、学年及び学級を単位して活動する。

平成 28 年度の仁科タイム学習内容

一学年	妙高宿泊学習 「地域を知る」 東京都武蔵野市立第五中学校との交流
二学年	爺ヶ岳登山 「地域の人に学ぶ」 職場体験学習
三学年	奈良京都修学旅行 「地域と共に生きる」 仁科台中学校開校 50 周年に関連して壁新聞づくり

<3年間の流れ>

1 学年：「地域を知る」・・・自分の育った地域をより深く知り、地域の良さを知る。

【例】「まるごとおおまち あるある探検隊」プロジェクト

講座：「自然」「歴史」「文化&芸術」「食」「観光」「産業」「人物」・・・

- ①立ち上げ（興味関心より、企画書を書く）→講座編成
- ②講演会（大町の魅力をテーマに）
- ③チームごと調査活動開始（2時間取れる日は、外に取材活動も可能）
- ④夏休みを利用して、取材レポート作成（信毎NIEセミナーなどを活用）
- ⑤終日仁科タイムに向けての活動準備（企画、アポイントメント、お礼状の書き方）
- ⑥終日仁科タイム → 活動のまとめ（個人レポート作成）、蓮華祭発表準備・発表
- ⑦学びの成果を振り返る（振り返りシート）
- ⑧「働くって何だろう？」を考え始める → 働く姿をDVDで観たり、講演会を聞いたりして。

2 学年：「地域の人に学ぶ」・・・職場体験学習を中心に「働くこと」について考え、将来の自分の生き方を見つける。

【例】「働くってなんだろう？」プロジェクト

- ①進路適性検査（自分の適性、やりたいことを見つける）
- ②どんな仕事や職業があるか調べる → 講演会、職業調べ、レポート作成
- ③職場探し（アポイントメント）※1年次に興味をもった先へ職場体験に行きたい生徒もいる
- ④職場体験の打ち合わせ、取材活動
- ⑤職場体験 → まとめ、レポート、蓮華祭発表準備・発表

3 学年：「地域と共に生きる」・・・育ててもらった地域に「恩返しできること」を考える。地域に出て、地域の方々と共にできる活動を組み立てる。

例えば、1年次湧き水について学習した生徒たちが、3年次には地域の河川をきれいにする活動に発展させたり、食について学習してきた生徒たちが、地域の素材をいかして地域のお年寄りと交流しながら郷土料理を作ったり、読み聞かせを学習してきた生徒たちが母校を訪ねて読み聞かせをしたり等。1・2年次の活動が地域をテーマに3年の活動につながることを目指したい。

【例】「きらり☆おおまち未来予想図」プロジェクト きらり☆仁中3学年隊

隊：「クリーン隊」「郷土料理ふるまい隊」「イベント隊」「福祉交流隊」「もの作り隊」

「リサイクル隊」「観光PR隊」「環境整備隊」「商店街盛り上げ隊」

「にっこり交流隊（幼稚園保育園・小学校・一人暮らしのお年寄りとの交流）」等

- ①「地域のために何ができるだろうか？」を考え、企画書を書く
（例えば、人口減少問題をきっかけに）
- ②隊を編成（市の定住促進課、市民サポートセンターからの講演会など）
- ③隊ごとに活動を開始（外に出る活動、学校に呼ぶ活動）
- ④活動内容をポートフォリオしていく（活動の終わりに毎回振り返りを書く）
- ⑤終日仁科タイムに向けての活動準備（企画、アポイントメント、お礼状の準備）
- ⑥終日仁科タイム → 活動のまとめ（個人レポート作成）
- ⑦蓮華祭発表 地域のために役立てた自分を語れる姿

3年間のゴール⇒「自分たちのふるさとをどう考え、どうしてくのか？」につなげていく。

一学年が仁科タイムで調べた成果を、武蔵野市立第五中学校との交流会のポスターセッション
ならびに蓮華祭（仁科台中学校文化祭）で発表しました

講座	タイトル	発表内容
自然	北アルプスについて	雄大で、四季折々の変化に富み豊かで美しい北アルプスが、いつどのようにしてできたのかを中心に、北アルプスの生い立ちを伝えたいと思います。また、大町市から見える雪形についても紹介します。
	居谷里湿原のすばらしさ	私たちは、県の天然記念物に指定されている居谷里湿原のすばらしさについて調べました。なぜ天然記念物に指定されているか、居谷里湿原に生息する貴重な動植物について、また、居谷里湿原が抱える問題について紹介します。
	大町市の特別天然記念物	私たちは、国の特別天然記念物に指定されている2種の動物について調べました。大町市にある山岳博物館に行き、大町市の鳥と獣に指定されている、ライチョウとカモシカの生態について紹介します。
	大町市を彩る植物	私たちは、大町市を彩る植物の「カタクリ」と「オオヤマザクラ」について調べてきました。この2つは、山岳博物館の申し入れにより、大町市の花と木に指定されています。どうしてこの2つが大町市を代表とする植物なのか、お聞きください。
	黒部ダムを知ろう	私たちは黒部ダムのことをもっと多くの人に知ってもらえるように、実際に黒部ダムに行き、勉強してきました。どのような景色が広がっていたのか、また黒部ダムの完成までどのような苦労があったのかがわかりました。
	大町の飲み水	私たちは、大町市の飲み水について調べました。私たちが飲んでいる水はどこからきているのか、大町市の観光の目玉にもなっている「男清水」「女清水」の違いや味などを調べました。そして、大町の水のおいしい秘訣が全て北アルプスのわき水を使っているためだということがわかりました。
	大町の景色	私たちは自然豊かな大町市のきれいな景色について調べました。そして、なぜその景色が有名なのか、その理由を考えました。
観光	黒部ダムの魅力	黒部ダムは有名で、人気観光スポットとして県外からも多くの観光客が訪れます。ダムの上からの眺めや季節の風景が美しく、最近ではダムの中も見られるようになり、ますます活気づいています。そんな黒部ダムの魅力をたっぷりと紹介します。
	木崎湖モダンボート	大町市には、仁科三湖として名の知られた湖があります。その中のひとつ木崎湖では、キャンプやバーベキュー、足こぎボートや釣り、SUP（サップ）などレジャーやスポーツが楽しめます。どのように楽しめるのか詳しくお伝えします。
	サイクリングコース in 大町	北アルプスを中心とした広大な自然があるこの大町市には、サイクリングコースが多く、夏季はサイクリングを目的に訪れる人もいます。この発表では、仁科台中学校生にとって最も身近なコースをご紹介します。
	自然いっぱい！ ～アルプス公園～	この国営公園も開園して7年になりますが、マウンテンバイクやボルタリングなどが楽しめる「自然体験ゾーン」を、今年6月に新たに開園しました。この発表では、クラフト体験を中心に、自分たちが体験してきた魅力を余すところなく紹介したいと思います。
人物	鉄拳	大町市出身のお笑い芸人鉄拳さんについて、実家のお父さんにインタビューした内容を発表します。鉄拳さんのパラパラ漫画も見ることができます。
	百瀬慎太郎	登山家の百瀬慎太郎さんについて発表します。酒豪で有名なので、実際に手作りした樽を持つことができます。
	田島幸信	大町市の観光大使である田島幸信さんについて発表します。イグノーベル賞の化学賞を受賞したすごい方です。
	牛越市長	大町市長の牛越徹さんについて発表します。これからの大町についていろいろと知ることができます。
	仁科氏	大町市の武将仁科氏について発表します。仁科氏が使っていた剣の重さを体験できます。
	奥原希望	リオデジャネイロオリンピック女子バドミントンシングルス銅メダルの奥原希望選手について発表します。母校は仁科台中学校です。

	新津きよみ	大町市出身の小説家新津きよみさんについて発表します。新津さんが書いた小説を読むことができます。
	松崎和紙	大町市の伝統工芸松崎和紙について発表します。実際に和紙や原料を触ることができます。
	嶺村鴻汰	大町出身の走り幅跳び選手嶺村鴻汰さんについて発表します。嶺村選手の自己ベスト記録に挑戦できます。
産業	商店街にインタビュー	大町市は年々大型店舗の進出などがあり、年々お店の数が減少しています。大町市の商店街の魅力を、みなさんに伝えることで、多くの人が商店街で買い物をしようと思えるような発表をします。
	大町市の企業	大町市を支える大きな企業を紹介します。生活になくてはならないものなど様々なものを大町市の企業でつくっています。発表を楽しみにして下さい。
	建設業の魅力	大町市の建設業組合について紹介します。近年、若い人が建設業関係の職に就く人がいなく、困っています。建設業の魅力を発表し、建設業に興味を持ってもらえたら嬉しいです。
歴史	若一王子神社例大祭について	若一王子神社の歴史を調べるとともに、大町の夏祭りである若一王子神社祭典（流鏝馬、舞台）についてまとめて発表します。
	国宝「仁科神明宮」について	長野県には7つの国宝があり、そのうちの1つが仁科神明宮です。地元の宝の歴史を調べ、後世に伝える大切さを考えました。
	古墳	大町市にある古墳の数や場所を調べ、古墳ができた理由など考えました。また、実際に発掘現場まで行き、発掘の手伝いを行ったり、説明を聞いたりなど、現地調査を行いました。
	泉小太郎伝説と大町の古い建物	大町に伝わる泉小太郎伝説。実際に伝説にまつわるお寺や昔話を語る会の人たちと交流し、伝説を詳しく調べました。
	塩の道	新潟の糸魚川から松本まで続く「塩の道」。塩の道の歴史を調べ、昔の道と今の道の違いなどを調べ、古道を歩きました。
	大町の遺跡 ～山ノ神遺跡～	山ノ神遺跡と遺跡から出土した石器について調べ、詳しく発表します。
食	大町の「おやき」のすべて	大町の昔ながらの郷土食の一つである「おやき」について、具材や作り方の紹介に加え、自分たちで実際に作った体験を中心に発表します。
	大町のりんご	大町にはたくさんのりんご農家があります。りんご農園で取材した内容をもとに、おいしいりんごの秘密や品種等を紹介したいと思います。
	大町の食文化	海がないここ大町で培われた独特な食文化の紹介。古文書に記された様々な食材や献立資料から昔の料理を現代風にアレンジして、今に伝えようとしているお店の紹介をしたいと思います。
	大町発祥の食べ物	美味しく健康な2種類の大町発祥の食べ物をみなさんに知ってもらえるよう紹介します。
	大町のそば	大町のそばは美味しい!! 市内3軒のそば店を紹介しながら、大町に来たらそばを食べようと思ってもらえるような発表にしたいと思います。
	凍りもち	“凍りもちとは一体なんなのか” 作り方や食べ方について、実際自分たちで作った料理を紹介しながら、すごい食材だということを伝えたいと思います。



第五中学との交流会 開会式



ポスターセッションで仁中生が大町市を紹介



次に五中生が武蔵野市を紹介

大町が生んだ天才小説家 新津きよみ

「人物」講座



みなさんは大町市の有名な小説家新津きよみさんを知っていますか。

私たちは今回、新津きよみさんのことを調べました。

新津きよみさんはここ大町市出身の小説家さんです。

仁科台中学校から松本深志高校へ進学し、青山学院大学を卒業したきよみさんは、旅行会社のOLを経て、1988年に「両面テープのお嬢さん」で小説家デビューを果たしました。

他にも、「彼女の遺言」「フルコースな女たち」「記録魔」など作品の数は100作品以上あります。大町市を舞台にした「帰郷」「父娘の絆」などもあります。

テレビドラマになるほか、「桜、ふたたびの加奈子」では広末涼子やSMA Pの稲垣吾郎が出演した映画にもなりました。

また、きよみさんの夫、折原一さんも小説家です。二人のコラボ作品「二重生活」もあります。



新津きよみさんの作品

調査をまとめる前の段階で、新津きよみさんのお母様にインタビューをさせていただきました。とても上品なお母様だったので、お母様特集をつくってみました。お母様は、86歳だそうです。嵐の大ファンでコンサートにもよく行っているそうです。嵐のメンバーの中では特に、相葉ちゃんのファンだそうです。

お母様にはお子さんが3人います。3人とも東京へ行ってしまったようですが、お子さんたちのために手紙を出していたそうです。お子さんから返信された手紙は、今でも棚の中に大切に保管されていました。

お母様は、常にお子さんたちをほめたので反抗せず素直に育ったと言っていました。今もきよみさんの夫の折原さんをほめているということでした。

とてもユニークで常に前向きなお母様がすごいと思いました。

素晴らしい居谷里湿原

「自然」講座

居谷里湿原は、木崎湖から東に2kmほど入った山の中にあります。とても素晴らしい湿原で、「日本の重要湿原500」にも選ばれています。また、居谷里湿原には珍しい貴重な動植物が数多く生息しているため、昭和46年に長野県天然記念物に指定されました。



ハナノキ

「ハナノキ」という木です。ハナノキは国の天然記念物に指定されていて、暖かい地方にほんのわずかに確認されているだけです。それなのに、なぜこんな寒い居谷里湿原に自生しているのか？現在のところ、わかっていません。



イヤリトリカブト

「イヤリトリカブト」というトリカブトの一種です。30年ほど前、日本で最初に居谷里湿原で発見されたので、イヤリの名前がつけられました。



ハッチョウトンボ

日本で最も小さい「ハッチョウトンボ」というトンボです。大きさは約2cmで一円玉に乗ってしまうほど小さいトンボです。以前は、日本各地に広く生息していましたが、最近は環境汚染などで生息地が限定され、その数も激減して、大きな問題になっています。



ミツガシワ

他にも「ミツガシワ」という氷河期からの生き残りと言われている植物も自生しています。この花はこの写真のように、寒さから身を守るためか、花弁に細かい毛が生えています。

また、「モリアオガエル」というカエルが生息しています。このカエルは、水中に卵を産まずに、池などの上の木の枝に、泡に包まれた卵を産みつけます。この泡の中で卵はオタマジャクシとなり、下に落ちて水中で成長する珍しいカエルです。



モリアオガエル

他にも「春の女神」とか「スプリングエフェメラル」とも言われている、「ヒメギフチョウ」というチョウも生息しています。このチョウは天然記念物に指定されています。



ヒメギフチョウ



湿原の陸地化

以上のように、多くの貴重な生物が住む居谷里湿原ですが、実は今、居谷里湿原が消滅の危機にさらされています。それは、最近目立つようになった、ハンノキやヨシなどの植物の繁殖のため、湿原の「陸地化」が進んでいるのです。大町市でもハンノキやヨシを切るなどの取り組みをしていますが、完全に陸地化を防ぐことはできません。このままだと、500年後には、居谷里湿原は消滅しているかもしれません。

しかし、このような問題をかかえながらも、居谷里湿原は大々的に宣伝をして、大勢の人が押し寄せる観光地としていないため、手つかずの素晴らしい自然を保っている大町の宝物です。私たちは、この自然をいつまでも大切にしていかなければいけないと思います。

商店街にインタビュー

「産業」講座

私たちが住んでいる大町市の商店街は、今、お客が減りつつあります。

そこで、私たちは商店街の魅力を調べ、皆さんに伝えていこうと、商店街にインタビュー活動を行いました。

1. 商店街の魅力

①ニーズに合わせた対応

吉沢理美容館では、お客の顧客サービスを大切に、一人ひとりが求めている髪型に対応することができます。髪の毛を洗う水にもこだわっていて、癒やしのサロンを実現しています。



吉沢理美容館

②大型店には無いものがある。

商店街にはそれぞれ大型店には無いものがたくさんあります。

例えば呉服店の大三では県外からお客が来るほど服の種類が豊富です。

また、洋菓子の立田屋というケーキ屋さんではおよそ 20 種類のケーキがあり、また季節に合わせたケーキも作っています。



呉服店「大三」

③各店に専門の知識がある。

商店街では、各店にそれぞれ知識を持っている人がたくさんいて、お客に知識を教えることができ、より買いやすくなっています。

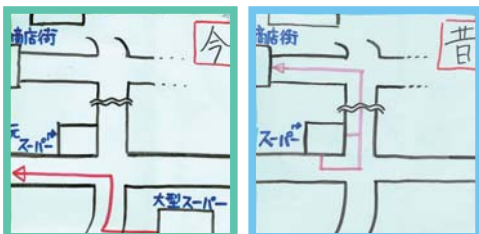


洋菓子の立田屋

④行事が多い！

商店街のみんなで協力して、楽しいイベントを行って、地域を盛り上げています。

2. 困っていること



郊外に大型店ができたことで、スーパーで用が済んでしまい、商店街に来てくれる人が少なくなっていました。とっても残念です。

このマップを見て下さい。以前まで、大町市の北側に住んでいた人たちは、このスーパー（アップルランド）を利用した後、帰る時はアップルランドから出るときに左折し、商店街を通りお菓子屋さんや服屋さんによって帰る人が多かったのですが、最近になり、このアップルランドが移転し、新たに大型スーパーができ、お店を出て、商店街を通らないで帰れるようになってしまいました。

3. 頑張っていること

①景観の管理

商店街の歩道などに、花を植えたり、置いたりして明るくしています。



②ポスター

お店に大町で行われる行事についてのポスターを貼り、多くの人に参加してもらえるように、各お店にポスターを貼っています。



4. 店舗数の減少

20 年前 約 350 店 10 年前 約 320 店 現在 約 210 店

私たちはこの活動を通して、商店街の魅力、そして、商店街のすばらしさを学ぶことができました。また、新しくできたフレスポもいろいろなお店があり、大変便利です。みなさんに商店街の魅力は伝わったでしょうか。とてもすばらしい商店街です。ぜひ、みなさん来て下さい。



観光グループでは、大町の本通りを調べ、
武蔵野市立第五中学校一学年にまち案内を行いました。



東京の人だから、気難しい感じかな？と思っていたけれど、フレンドリーでたくさん話することができました。また、あたりまえに飲んでいた水が「おいしい」と言ってくれて、大町の良さを再発見しました。



東京の人たちから見たら、大町の文化や環境をめずらしく思う人がいて、私たちが東京にあこがれたり、不思議に思うのと一緒に、分かりあえた気がしました。



1 2016年(平成28年)9月25日(日曜日) 【月曜】

仁科台生徒が商店街案内

武蔵野と大町の中学生交流

東京都の武蔵野市立第五中学校1年生が23日から27日まで、大町市と白馬村で長期宿泊活動「セカンドスクール」に取り組んでいる。

23日は、仁科台中学校1年生の案内で大町の商店街を巡った後、大町と武蔵野について事前学習した成果を発表し合うポスターセッションで交流し、互いの地域に理解を深めた。

第五中学校からは生徒78人が訪れ、白馬村では農家民泊をして稲刈りなどを体験する。東京五輪を前に都が進める「オリンピック・パラリンピック教育」の一環で白馬ジャンプ競技場の見学や、姫川

源流自然探勝園でヨシを刈り取る環境保全活動にも取り組む。

仁科台中学生は23日、事前学習で手作りのガイドブックを配って、中心市街の名所や観光スポットを案内して回った。商店街の水場「男清水・女清水」では、用意していたコップを手渡し味比べをしてもらうなど名ガイド役を立派に果たしていた。須澤鳳介君は「大町のいいところを

知ってもらい、また来てもらえるように説明したい」と話していた。武蔵野市が農山漁村で取り組む「セカンドスクール」の一環で、第五中学校は昨年に引き続き2回目の大北地域訪問となった。菅野由紀子校長は「都会ではできない自然体験や、文化について学ぶ機会にしたい」と話していた。27日からは、武蔵野市立第一中学校も大北地域を訪れる。



街案内をする仁科台中学生（右側）

美麻小中学校 総合的な学習の時間（美麻市民科）の概要

<目的>

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考える力をつける。

- ・地域と連携し、美麻の文化や歴史について調査したり、発信したりする。
- ・地域の学習を発展させ、社会に目を向ける。

<学習内容>

学年	時間	発表場所	内容	地域と関係
3		クラス展示 参観日	美麻めぐり	美麻を知る
4			美麻の自然	
5	50 + 20	梨の木祭	長野大学の指導 長野大学の指導 メンドシーノ メンドシーノ	美麻とつながる
6	50 + 20	//	美麻の歴史	
7	50	地区文化祭	美麻の伝統と文化	
8	50 + 20	//	日本と美麻	美麻を深め、広げる
9	50 + 20	//	日本や世界と美麻	

<学習の進め方>

	時間	活動内容
2～3月	2	・新5年～新9年の全体会①：総合の進め方について ・総合的な学習のテーマ決定
5月	4	・全体会②：長野大学講師 ・地域の方の紹介・学習計画をたてる
5～7月	18	・調査活動
8～10月	18	・調査のまとめと発表準備
10月		・5, 6年→梨の木祭で発表 ・7, 8, 9年→地区文化祭で発表
11～12月	8	・全体会③：学習を振り返る ・12月：反省会

- ・7～9年の総合的な学習ではなく、3～9年の学習として考える。
- ・5、6年は梨の木祭で、7～9年は地区文化祭で発表する。
- ・5～9年は長野大学から指導をいただく。

関係をつくる力を高める「美麻市民科」

関係をつくる力とは、「意思を伝え合いながら生活上の問題を解決し、自分を取りまくひと、もの、こととの関係を深めること」であり、それは私たちが市民生活を送るときの基礎となる力です。本校ではこの関係をつくる力を、「聴く・問う」から始まる対話活動を中心とする「かわる力」と、自分と社会とのつながりを明らかにする「意思決定力」でとらえています。

「美麻市民科」は、総合的な学習を主に、行事や特別活動（学級活動）の学習、キャリア教育の学習に関連させて、児童生徒に「関係をつくる力」を高めるための本校独自の学習です。地域の自然、文化、住民との対話や職業体験を通し、「ふるさと美麻を愛し、語り、想い続ける児童生徒」が実現します。

また、本年度より個に寄せた「夢の時間」を設定し、自らの在り方や生き方を見つめ、生きる指標（志）を明らかにします。

2016年度の学習内容

7年生 美麻で有名なそばと山菜

昔から美麻でよく食べられているそばや山菜について調べました。

美麻の通学路に生えている植物の今と昔

学校の周りの植物を調べ、昔の様子や外来植物について取材しました。

メグスリノキ

美麻にあるといわれるメグスリノキを調べ、それでお茶をつくりました。

美麻の安全を守るプロ～冬期 皆が事故にあわないために

降雪時の事故や除雪作業について調べ、美麻の人に伝えました。

8年生 美麻をPRするフリーペーパーを作ろう！

来年のフリーペーパーづくりに向けて、自分たちが作りたいフリーペーパーのイメージをまとめ、いろいろな人にフリーペーパーの作り方や写真の撮り方を教わりました。

美麻をPRするCMを作ろう！

来年のCMづくりに向けて、静の桜とそばの2つのテーマに分かれ、調査・取材をしてCMのストーリーを考えました。

花豆開発チーム

「花豆」を美麻の特産にしたいと考え、花豆を育てたり販売してみたりする活動を通じて、花豆をどうやって発信していけばよいか考えました。

9年生 世界の人口について

昨年災害について調べたことを踏まえ、全員で少子高齢化問題を取り上げました。

世界、日本、長野県、大町、美麻とグループに分かれ、現状や成功例などを調べたあと、みんなで美麻の人口を増やすための対策を考えました。

世界の人口について

▼調べた項目

- 人口の増減
- 国民総所得
- GDP
- 宗教
- 増減の理由と対策など

▼世界の人口

減少している国

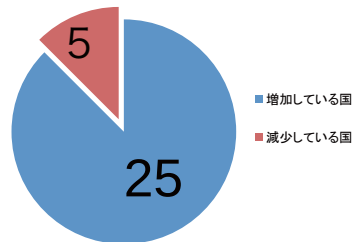
例 ポーランド

- 失業率が高い
- 職を求め外国に出て行ってしまう (EU 加盟国だから?)

増加している国

例 カナダ

- 積極的な移民の受け入れ
- 移民の条件が学歴や就労歴によるポイント制 (経済が活発になることを重視)



世界の人口

約 72 億人

現在も増えており、21 世紀末までに 100 億人突破すると言われています
日本の人口は減少していたが、世界の人口は増加していました

各国の人口 増加している国 減少している国

フランス サウジアラビア アメリカ
ロシア インド カナダ
モナコ タイ メキシコ
イギリス カンボジア
ポーランド ベトナム
スペイン 中国
ギリシャ イラン
ウクライナ フィリピン
日本

ケニア オーストラリア
ウガンダ ニュージーランド
南アフリカ共和国 アルゼンチン
エジプト
コンゴ共和国

フランス

子どもを産んで
人口増やそう作戦！

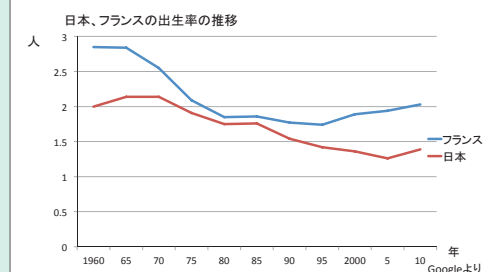
一度減少した出生率を回復させている

成功国の例

- ・フランス
- ・スウェーデン

出生率が 2.07 人以上でないと人口は維持できない

フランスの出生率



▼フランスの制度

出産・子育て

妊娠・出産・リハビリ費用無料
児童手当は 20 歳まで
育児サービスの充実
企業の再雇用の義務
税制の優遇
子供を産むと、お金がもらえる
子供を 3 人以上産むと年金 10%加算

教育

給食費、遠足・修学旅行費は収入により払う金額が違う。
大学に通う場合アパート代半額補助
公立の小中学校、高校、大学は授業料が無料

税金

税金が高い
消費税率基本 19.6%
(生活必需品は 5.5%)
日本は消費税率基本 8.0%

出産・育児に対する考え方

- ・子供を産んでも経済的な負担を考えなくてよい
- ・いろいろな家族の在り方が認められている
- ・結婚や家族への考え方の豊かにすることで子供を産む環境をみんなでサポートできる社会

フランスでは…

結婚、出産、育児に対して悩みがなく
明るく捉えることができる！！

ポートランド

コミュニティがすごい ポートランド

ポートランド

アメリカ オレゴン州の1市

人種差別がひどく、移住する人は少なかった。



移住したい都市 アメリカ内一位

ポートランド市議会

人口 60 万人

市長 1 人 議員 4 人 ➡ 5 人で決まりを決める

どんな人でも、発言する機会がある

・妊婦さん ・ホームレス ・決まりに反対する人

市民は自由に自分の意見を提案することができる

コミュニティ

居住地域を同じくし、利害をともにする共同社会。

コミュニティの中での住人の活動

* お年寄りのためのボランティア

・暮らしに不自由のないように

* 貧しい人のためのボランティア

・移住してきた人がお金を寄付

* あらゆるところでフリーマーケット

・みんなが協力して生活している

つまりポートランドとは

違う宗教、違う出身、違う人種の人々が同じ地域に住むことで、多様性が生まれ、色々な考え、色々な文化を 共有することができる都市。

美麻とポートランドを比べるとやはり、美麻には仕事がなく交通の便の悪いことが移住者が増えない1つの理由だと思いました。

ですが今回考えてみて、積極的に移民を増やそうとしていること、自然が多く自由な遊び場が多いこと、地域の皆さんが暖かいことは移住者を増やすための必要なポイントだと感じました。

ポートランド

- ・親切な人が多い
- ・挨拶が飛び交う町
- ・自由な遊び場がある
- ・仕事がある
- ・交通が便利

美麻

- ・言葉が通じることができる
- ・親切な人が多い
- ・挨拶が飛び交う町
- ・自由な遊び場がある
- ・町が積極的に移民を増やそうとしている
- ・町の中に落ち着く場所がある

メンドシーノ

美麻に活かすメンドシーノ

1. 動機

メンドシーノの過疎対策を調べ、理解することで、私達自身、美麻にも何か取り入れることができないか考える

2. 調査方法

調査するにあたりメンドシーノに住む Evan さんにお話を伺った。

前川さんを通じて、Evan さんとメールでやり取りをさせて頂く中で、過疎対策で重要な点やアドバイスなどを教えていただき、私たちは美麻にも何か取り入れることができないかと考えました。

Evan さんから聞いた重要キーワード

レッドウッドの木のブーム

観光の拡張

自然の美しさ、文化的なイベント、祭りの開催
安全な環境

イベントの開催

観光に力を入れる

住みやすい環境を作る

たくさんの人にその土地のことを知ってもらう

わかったこと

フランスより

- ・子供を増やすために
- ・子供を産むのに経済的負担を考えなくて良い
- ・色々な家族の在り方が認められている

ポーランドより

- ・移住者を増やすために
- ・コミュニティがある住みやすい街
- ・多様な考えや文化の共有ができる
- ・住人が温かい
- ・交通機関の発達

メンドシーノより

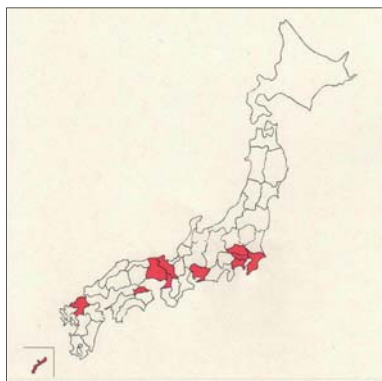
- ・観光客を増やすために
- ・イベントなどの開催で人を呼び込む
- ・なにかのブームを作る
- ・安全安心な街

日本人口問題調査グループ

日本の人口変化と対策

過疎化の始まりは 今から 46 年前

人口密度が 500 人 /km² の都道府県



対策

男女共同参画社会とは・・・

男の人も女の人も、意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会

実現のための 5 本の柱

男女の差別を
なくすこと

外国と
協力すること

男女が社会の方針の決定に
参加できるようにすること

家庭生活と仕事や地域活動などを
両立すること

男女が様々な活動ができるように
制度の在り方を考えること

男女共同参画により・・・

女性で働いている人が 3 年間で 100 万人増加

結婚支援

近年、未婚化、晩婚化中

子供手当制度

現在、日本で子育てに使えるお金
社会保障 2.8 兆円のうち
0.7 兆円 が使える！

自治体の後押し

情報共有

ネットワーク作り

交付金などの経済面

ちなみに日本の防衛費は…
4 兆 8,607 億円

日本の現状

都会
人口増加中

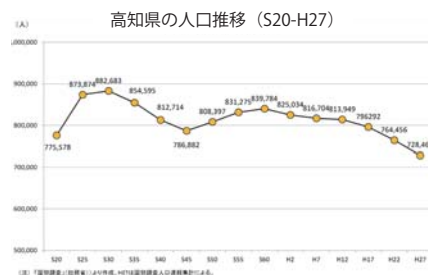
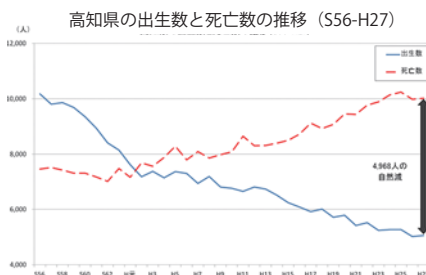
田舎
人口減少中

高知県

少子化の要因

未婚化・晩婚化が進み、
夫婦から生まれる子どもが減少している

死亡者数が増加している



課題Ⅰ

必要な医療などで地域で
安心して住み続けること
のできる県づくり！

対策

- ・医師を目指す学生、
研究生に寄付金援助
- ・妊娠施設の拡大など

課題Ⅱ

子どもたちを育てる
環境づくりの推進！

対策

- ・保育士資格を目指す
学生を支援
- ・子育て支援の取組
みを支援
- ・子供のいる家、商品
券が配布
- ・保育園、特定の人の
無料化

課題Ⅲ

出生率を増やす！

対策

結婚支援

- ・結婚に関する企業拡大
- ・不妊の人への援助

おもてなし課 取り組み

1. 美しい環境整備

- ・県内の美化活動取り組み、
トイレ設置拡大など

2. 観光客への情報提供

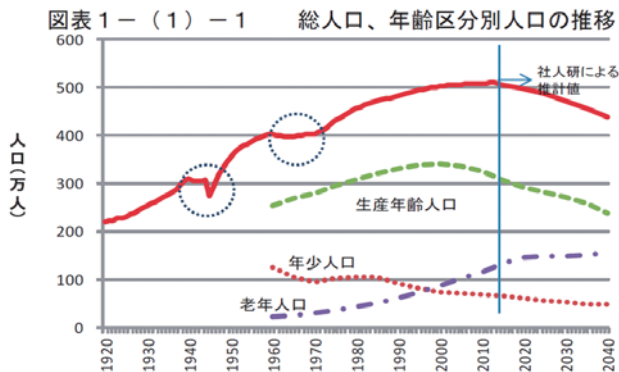
- ・外国人への対応、パンフ
レット作り、ガイドなど

福岡県

ー現状ー

1970 年（昭和 45 年）の国の調査では増加傾向にあるが、その伸びは鈍くなってきている

総人口と年齢区分別人口の推移



Q1. 人口減少しないのはなぜか？

社会的な増加 > 自然的な減少

◎特に大学進学タイミングで福岡に来る若者が多い。

Q2. 人口が減少しない対策は？

4つの基本目標のもと、人口減少対策にとりくんでいる

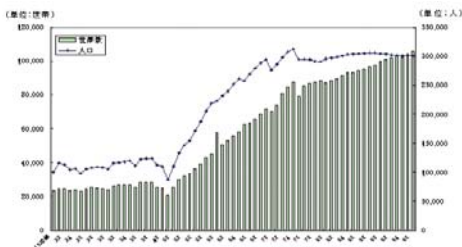
4つの基本目標

- 1 「魅力ある仕事の間」をつくる
- 2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 3 地方を活性化を担う人材の育成・定着とUターンをする人を増やす
- 4 安全・安心で活力ある地域をつくる

沖縄県

ー現状ー

- ・沖縄は人口が増えている。
- ・若い世代の結婚している割合が全国より高い。
- ・若いうちに結婚する人が全国より多い。
- ・第3子、第4子以上の出生率が高い。
- ・県外から沖縄県への転入者数
24,951 人 / 3 カ年平均 (2013～2015)



確かに増えているけど
でも、実際はもっと増えているかも！
若者たちが住民登録をしていないから！

沖縄が目指している姿

- ①自然増……安心な結婚・出産・子育てができる
- ②社会増……国際的な活動ができる
- ③離島・過疎地域……バランスのとれた人口の維持・増加ができる

具体的な取組み

①自然増

(結婚・出産・子育て)

- ・婚姻率、出生率の向上
- ・子育ての最低限の生活ができるようにする
- ・女性が活躍できるようにする
- ・健康長寿を目指す

②社会増

(国際的な活動)

- ・様々な人が働けるようにする
- ・地域産業の活性化
- ・U、J、Iターンの環境づくり
- ・その土地に訪れる人を増やす
- ・新しい人のながれを支えるまちづくり

③離島・過疎地域

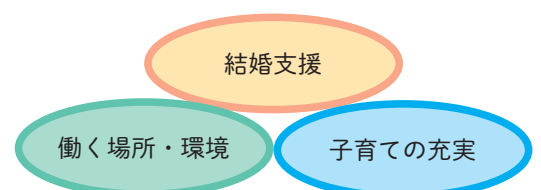
(人口維持・人口増加)

- ・定住者を増やす
- ・特色を生かした産業の活性化
- ・Uターン・移住者の増加

まとめ

日本では、働く場所・環境、結婚支援、子育ての充実の3つを土台として同じ目標に向かって、対策をしていることがわかりました。しかし、土台にしているものは同じでも、各都道府県でそれぞれの環境や特色を活かして、違う内容の対策をおこなっていることがわかりました。

目指せ田舎の人口増加



長野県の少子高齢化とその対策について

長野県

移住希望地ランキングの推移

2011 年	1 位
2012 年	1 位
2013 年	1 位
2014 年	2 位
2015 年	1 位

毎年ほぼ
1 位！

移住先は長野県が人気！

人気のポイント

自然のスケールが大きい
都会には無い大きな山、川、森がある
夏は涼しく過ごしやすい
北アルプス・南アルプス・中央アルプスの 3 つの山脈がある
日本百名山に登録されている山は 29 個もある



大自然の中で暮らせる！

首都から近くて便利

長野県は日本のほぼ中央に位置しているので交通の便がとても良く、また長野市・松本市・上田市は意外と都会なので、都会暮らしに慣れてしまった人にも人気です。

2つの地区の移住者対策

伊那市新山地区

伊那市新山地区は、人口約 700 人の自然豊かな土地で、伊那市への移住・定住の促進を図るため、「田舎暮らしモデル地域」として指定されました。ここでは、地域、行政、民間事業者などの協働により、移住者に対する受入体制の整備や生活基盤の確立に向けた支援を行っています。

◇新山小学校

新山小学校は平成 21 年度から小規模特認校に指定されました

◇みんなが PTA

新山では、子どものいない家庭でも全ての世帯が小学校の PTA に加入する「全戸 PTA」で 学校を盛り立てていて、運動会や文化祭に地域の方も参加します。また、遠距離から通学する児童の送迎もボランティアで行っています。

茅野市

茅野市は、ほぼ日本の中央に位置し、八ヶ岳連峰の裾野に広がる自然豊かな高原都市です。高原植物が咲き乱れる春、さわやかな夏、紅葉の秋、雪が降る冬と四季の変化がはっきりしています。また、遥か 5,000 年前から先人が住み栄えた地でもあり、縄文時代の国宝土偶「縄文のビーナス」と「仮面の女神」が発掘されています。

交流・体験・お試し制度 「移住体験生活」

短期間、茅野市の生活を体験できる

茅野市の
移住者対策

茅野市空き家改修補修事業

育児支援

こども館 福祉施設 おやすみ館

大町市

大町市の目指す姿

数値目標

定住人口 3 万人
暮らしやすさ満足度 80%以上
毎年の出生数 180 人程度の確保

メインターゲット

20 代後半から 40 代の
結婚・出産・子育て世代

住みたい町

帰りたい町

住み続けたい町

大町市の取組み 子育て支援制度

子ども医療費助成

中学 3 年生までの医療費を助成

保育料減免

子どもが保育園に入ったら 2 人同時入所で半額・3 人同時で保育料無料

育児制度支援

子どもが 3 歳の時に商品券がもらえる

出産祝い

子どもの出産のときにお祝い金もらえる

給食費助成

保護者の負担を軽減するため給食費を助成

大町市魅力体験ツアー

子育て体験ツアー
冬の暮らし体験ツアー
大町暮らし拝見ツアー



定住促進アドバイザー制度

アドバイザー

7 人の移住体験者が様々な質問にお答えします

空き家バンク制度

市内の賃貸・売買できる空き家の所有者が登録した空き家情報を利用希望者へ市が提供している制度

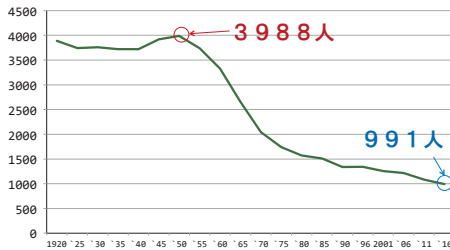
空き家改修事業補助金

定住するつもり移住者に限り、補助金が出る。空き家バンクと一緒に用いる事で定住を促進できる

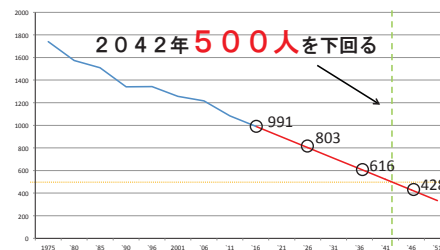
美麻

美麻の人口

現在の人口



2042年の人口

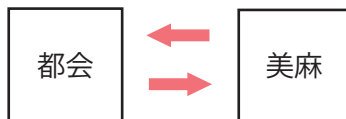


対策

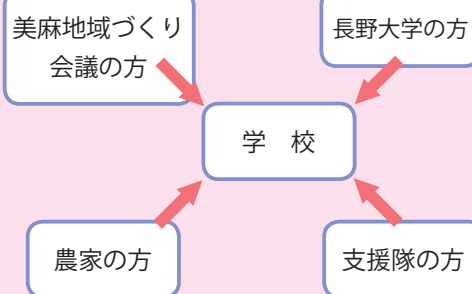
美麻で行われている対策とは？

二地域移住（大町市の政策）

美麻（ふたえ市民農園、おもしろ市民農園）が、農業に興味のある人に勧めている政策。



美麻コミュニティスクールとしての取り組み



美麻小中一貫校としての取り組み

小学校（6年）	中学校（3年）
美麻の小中一貫教育（9年）	
ホップ期（1～4）	ステップ期（5～7）
	ジャンプ期（8～9）

メリット

- 幅広い学年と交流がある
- 自治会の運営がスムーズに引き渡される

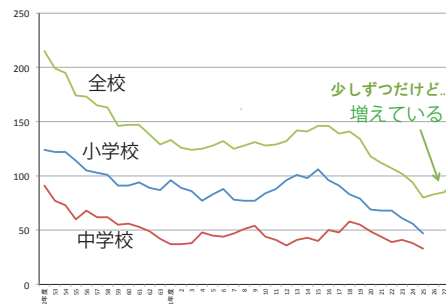
美麻小中学校 小規模特認校としての取り組みなど

小規模特認校＝他学区でも入学できる学校

元気アップ

対話型授業

山村留学
受入れ



結論

全国的に進んでいる少子高齢化に対して、美麻では美麻小中学校に主力を注いでいて、実際に効果も出ている。

私たちの提案 美麻の人口を増やすためには

家について

定住促進住宅を増やす
空き家を住めない状態だった場合も土地ごと売り出す
定住促進住宅 空き家

職について

大企業や大きな工場を誘致する。職場ができることのほか、産業が活性化するなどのメリットがある
美麻を何らかの方法で売り出し、観光業という職をつくる

誰にきてもらうか

黒部ダム観光客や、白馬のスキー客に美麻に来てもらうことはできないか…
中国、台湾などの外国人観光客が多い
インド人（人口世界第2位）観光客も増えている
外国人観光客が狙い目

食を売り出す

美麻にある食べもの～
そば おやき
みそ（マルコメ）
ジビエ 農園カフェ
美麻コーヒー 青空屋台
美麻ベーカリー など

美麻に来る道を楽しむ

スノーシェルターを改革
スノーシェルターに色をぬったリイルミネーションをするなどして通ると楽しい場所にする。
道を通る人が楽しいと思えるような絵などをかいたりする。

今日の一枚

インターネットで閲覧者が多い facebook や instagram、twitter などに美麻の風景写真を毎日投稿する
安曇野アートラインに美麻も入れる

住民参加で巨大絵

美麻市で住民や来た人が参加できる巨大絵をつくる企画をする。

PR 看板

交通量が多い道路のそばに美麻の名所、特長がわかるイラストや文章が書かれた、印象に残る看板を立てる

八坂中学校 平成 28 年度 総合「やさかの時間」について

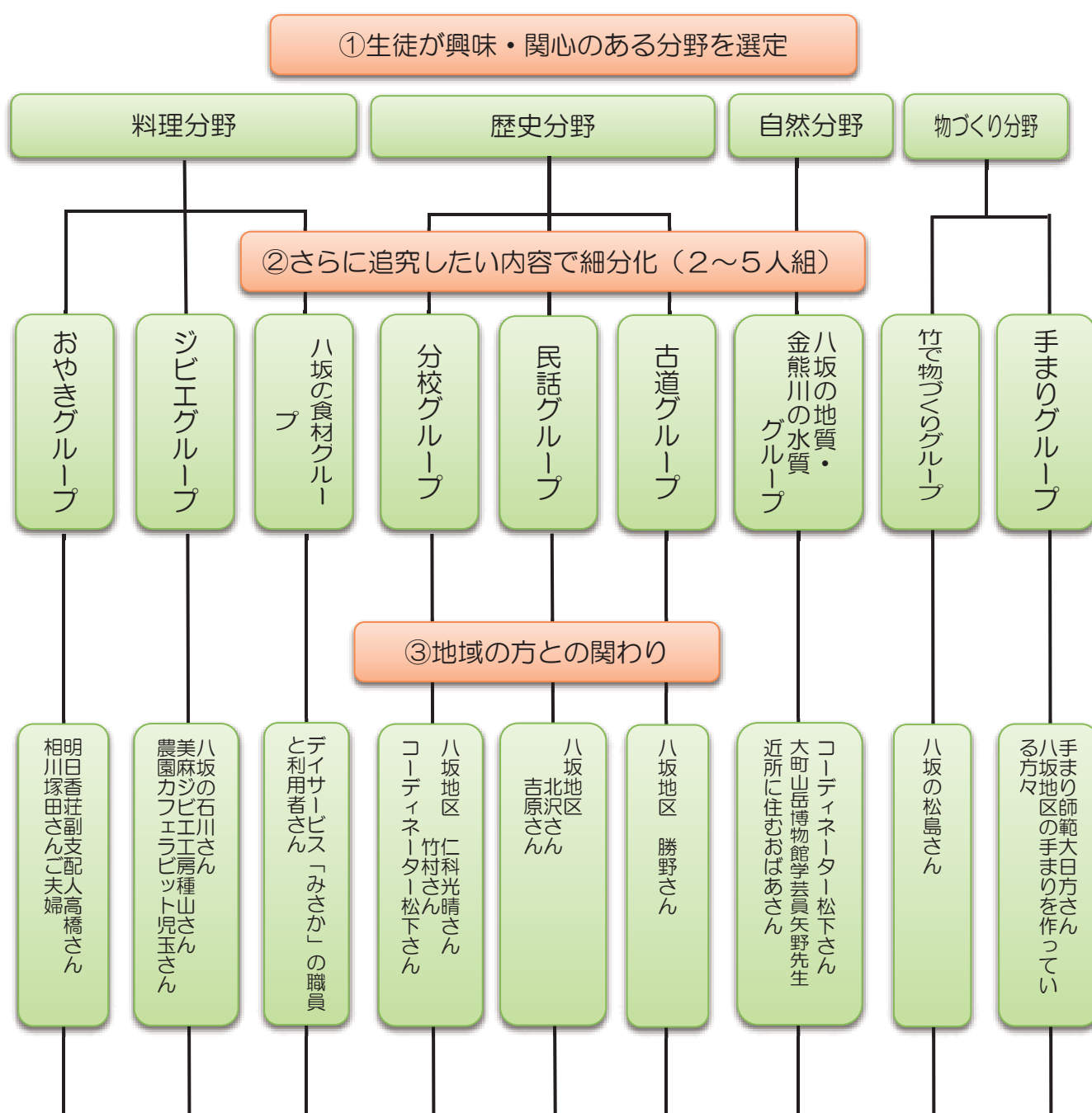
1 総合的な学習の時間のテーマ

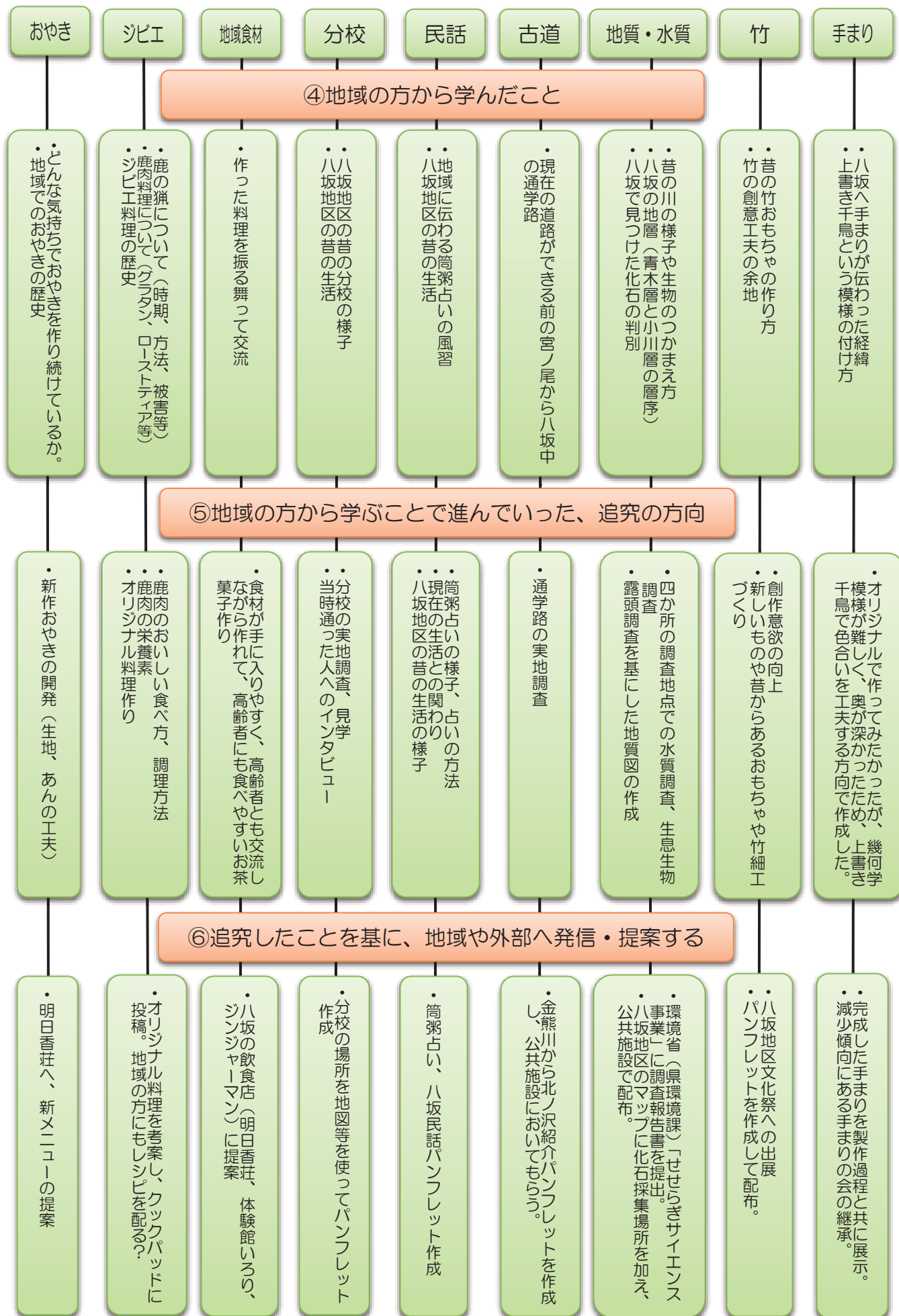
◆やさかの時間のテーマ：「地域と共に」

八坂地区ならではの社会・歴史・文化について自分たちなりの課題を持ち、地域の方と関わりながら、解決するために主体的に活動し、地域に発信することを通して、生きていく力を身につけること。

◎八坂の方を講師に迎え学ぶ。 ◎八坂にある施設の利用と交流を図る。 ◎外部への発信。

2 本年度の活動の流れ（全校縦割り班で活動）





地域の方と関わり、学びを深めた！ — 一日やさかの日 担当教員の報告から —

7月4日（月）に、総合的な学習の時間を終日行う「一日やさかの日」がありました。

総合的な学習の時間「やさかの時間」の中で、地域でとことん学ぶ日が、この「一日やさかの日」です。どのグループもこの日のために見通しを持って学習を積み上げてきました。そして、その学びを基にして、地域の方を講師に迎えたり、現地を訪ねたりして、五感で八坂を感じることを通して、新たな地域への見方を広げ、自分なりの考えをもって、外へ発信する見通しが出来てきたと思います。これからも、継続して追究を進めていきます。各グループでの「一日やさかの日」の学びの様子を紹介します。

八坂で化石をとりたい！八坂の地層に思いをめぐらせて — 地質グループ —

「八坂では、化石はとれないの？」NAくんが抱いた疑問です。

地質グループでは、周辺の地域で採れる化石を、八坂でも採ってみたいという願いを持ち、学校の周辺の川へ出かけ、そこから見える崖の様子を観察してきました。しかし、化石が採れる気配はありません。そこで、大町山岳博物館の矢野先生に教えていただきながら、八坂の地層はどんな地層なのか学習を進めました。八坂地区には、大きく分けて、砂岩と泥岩の互層である「青木層」と、砂岩からなる「小川層」があることを教えていただきました。

学校から犀川、大岡道の駅、そして新町の左右地区から美麻大塩へ抜ける道沿いの露頭を調査しながら、目の前の崖の地層のようすや傾斜を記録し、青木層と小川層の重なり方について推測しながら、手作り地質図を完成させました。

途中、大姥山のふもとの泥岩層の中から、偶然、小さな植物化石を発見することが出来ました。八坂にも、化石が出る場所があることに感動し、大昔に地層がたまった時の様子に思いをめぐらせることができました。

「一日やさかの日」を通して、NKくんは、目の前の事実を基に、「これは〇〇なんじゃないか」というふうに見ていきたいと、事象に対して推論していこうとする意識が持てたと言っています。「一日やさかの日」を通して、自分の姿の変容が感じられます。

今後は、これらの調査から分かったことを、多くの方に見ていただけるようなマップにして発信したいと考えています。



八坂の地域で取れる竹を使ってものづくりをしよう そして中学校や様々な場所を竹製品でいっぱいになろう — ものづくりグループ —

「八坂で取れるものを使ってものづくりをしよう」ということで、様々なものが候補に上がる中でやはり竹。身近で、やったことがある、加工しやすい、多用途ということで素材を竹に決定し、ただ作っておしまいではなく、それを発信したい。ということで第一に中学校にたくさん展示しようと考えて作品作りを開始しています。今までに弓、矢、竹笛、竹とんぼ、釣竿などを作ってきました。



今回一日やさかの日の午前中は松島さんに色々と教わりに行きました。いくと竹のガリガリ風車というのでしょうか、それを全員にいただきました。そしてやってみると「おお～なんで回るのか」という声も上がり竹の素晴らしさに引き込まれていきました。この後は竹の水鉄砲や弓、自分たちでも創意して色々なものを製作することができました。松島さんは自分たちが小さいころには竹を加工して遊ぶしかなかった。今は色々な遊ぶものがあるが、こうやって実際に中学生が竹を加工して作りたいものを作る姿を見ると面白いものと考えて作っている。と感心していただきました。

午後は、教わったものを学校に持ってきて使ってみようということで、プールに入りながら水鉄砲をやってみると「この威力はすごい！」と生徒が感心し、「弓を使ってみると良く飛ぶ」といった驚きの声が多く上がりました。創意工夫ということで釣竿で実際に釣りもしてみたところ5匹の魚を釣り上げることができました。一日竹に関わり、その可能性や多様性をさらに深めることが出来ました。



今後は教わったガリガリ作り、楽器づくり、スタードームづくり、創意工夫で新しい製品作りとさらに作品を増やし、竹の魅力や可能性を深めていきたいと考えています。

八坂の鹿でジビエ料理を考案し、八坂クックパッドを作成しよう！ — ジビエグループ —

ジビエグループは、八坂の特産物、中でも「ジビエ料理」に着目して活動しています。これまでに、八坂猟友会の石川さんのお話をお聞きしたり、作り方を教えていただいたりして「鹿肉ロースト」や「鹿肉グラタン」などを調理したりしてきました。

「私たちが食べている鹿は、どのようにして解体されるのかな？」という疑問をもち、今回、美麻ジビエ工房の種山さんにお話を伺ってきました。実際に大きな熊や鹿を解体する道具を見せてもらったり、お肉を保存しておく -25 度の巨大冷凍庫に入ったりしました。ジビエ工房設立の背景には、熊や鹿、



イノシシなどによる農作物の被害があったこと、農作物を守るためにたくさんの猟友会の方が活動していることがわかり、ジビエ料理をする上での知識が一段と深まりました。

更に、農園カフェラビットの児玉さんにもお話をお聞きました。鹿肉のおいしい部位や、臭みがない理由、鹿肉と合う野菜など、ジビエ料理研究家の児玉さんならではの鹿肉をおいしく調理する方法を教えてください、これからの活動の中で参考にしていきたいと思いました。一日やさかの日を通してジビエ料理の背景を知ったことで、子ども

たちに改めて命を大切にする気持ちが育まれたのではないかと思います。

今後は、今回聞いたお話を踏まえて、様々なジビエ料理に挑戦し、「八坂クックパッド」を作成して、ホームページに載せて発信していきたいと思っています。

八坂地区に伝わる筒粥占いと当時の生活 — 民話グループ —

八坂地区には、かつて、今は廃集落になってしまった「西の窪」地区において「筒粥占い」という風習があったと八坂村史に書かれていました。

「筒粥占い」って何なんだろう。どのような占いで、何のために占っていたのだろう。そんな素朴な疑問からこの「筒粥占い」について調べてみようと思いました。

「1 日やさかの日」には、事前をお願いしていた大平の北澤千代司さんのお宅でお話を伺いました。残念なことに「筒粥占い」について具体的にはわかりませんでした。八坂地区の昔の生活について詳しくお聞きすることができました。西の窪を含む中央区には昔は 140 戸以上の集落であったこと、ほぼ自給自足の生活をしていたこと、米がとれなくて麦やそばを作っていたこと、盆や正月がごちそうの食べられる日だったこと、お祭りのこと…などです。今とはだいぶ違っていたことがわかりました。

午後は、徒歩で「西の窪」を散策しました。小菅を少し上がったところからはすべて山道で、行くだけで大変でした。廃屋が何軒もあり、庭先に 2 層式の洗濯機がそのままになっていたりして、当時の生活の様子も少しわかりました。かつて「筒粥占い」が行われていた神社は探し出せませんでした。平らな土地もさほどないところで、苦勞も多かったのだろうなと思いました。

私たちの調査は、まだ途中です。今後は、西の窪から梨平など八坂内の他の地区に転居してきた方から「筒粥占い」のお話を伺えればと考えています。



「新しい味のおやき」を考えよう！

— おやきグループ —

私たちは、郷土料理のおやきについて調査し、新しい味のおやきの開発を目標に活動しています。「一日やさかの日」では、事前に考えた餡で実際におやきを作ってみました。

1品目は「麻婆茄子」です。ナス味噌は有名ですが麻婆茄子にしたらおもしろいのではと挑戦してみました。2品目は「もやしのネギ味噌炒め」です。ネギを浅葱に変えて、八坂の味にしようと考えてきましたが、浅葱の時期が終わってしまったため、急遽「もやしのニラ味噌炒め」にしました。「麻婆茄子」はちょっと薄味で「おいしい」と言える味には出来上がりませんでした。「もやしのニラ味噌炒め」はおいしかったですが、ニラの風味があまり生かされていませんでした。

また、生地を寝かせている間に、灰焼きおやきで有名な明日香荘へ行き、おやきを作り続けている理由や、風呂の日限定の変わり種おやきの餡の開発についてお聞きしました。昔から続いている「明日香荘の灰焼きおやき」という伝統を続けなければという使命感を持って作り続けていること、季節の物を使った変わり種おやきは、話し合って考案していること、新作を考えることはとても大変だという話をお聞きしました。

自分たちで実際に新しい味を考え、試作してみることを通して、新作を考え出すことの大変さを体感しました。もう少し時間がかかりそうですが、八坂の名物になりそうな新しい味おやきを考えたいと思っています。



手まり作り — 手まりグループ —



「一日やさかの日」に、八坂地区で手まりを作っている方々から、手まり作りについて教えていただきました。

基本的な手まりの模様を教わり、一日黙々と製作しました。そして製作をしながら、手まりの奥深さや、八坂周辺の地域で、どのように手まり作りが広まったのかなどを教えていただきました。

一日製作をして、ようやく半分くらいまでできあがり、生徒たちは、自分達よりもっと難しい模様を作っている地域の方はすごいなと感じました。完成まで、一針一針、丁寧に作っていききたいと思います。

手まり作りについてお聞きしたお話のまとめや、完成作品の展示は、2学期に開催される「やまびこ祭」にて行います。お楽しみに。

昔、八坂には小学校は、今とどんな違いがあるのだろうか — 分校グループ —

八坂村誌で調べると、明治の頃、八坂には大平・切久保・石原・野平・舟場・左右に小学校の分校があったことが分かりました。そこで、歴史グループの4名は「一日やさかの日」に分校の跡地を巡り、今と昔の学校の違いについて調べることにしました。

当日は、切久保分校・石原分校・野平分校・第二小学校を訪ねました。

切久保分校は現在切久保公民館として使われていました。切久保地区自治会長の仁科さん、元八坂村助役の仁科さんのお二人から、内部を見学させてもらいながら、お話をお聞きしました。昭和10年に火災に遭い、翌年新築された校舎が今は公民館として使われているそうです。当時、小学生だった仁科さんから、1～3年生と4～6年生が複式学級で2教室だったことや担任の先生がご夫婦で学校の中に住んでいたことなどをお聞きし、今と昔の学校の違いが分かってきました。

石原分校は学校の建物がなくなり、跡地に石原基幹センターが建っていました。

第二小学校へ行く前に、今も残る野平分校に立ち寄ることができました。110年余り前の建物は壊れかかっていましたが、2階の窓が校舎らしい形を残していました。

第二小学校は、昭和41年に川手分校が独立して第二小学校となりました。舟場の竹村さんから話をお聞きしたところ、今、ラフティング体験の基地として使っているモダンな体育館が建つ前は、かつての校舎の一番端に体育室があったそうです。

学校に戻ってから、学校支援ボランティアの松下さんから石原分校を建てたときの様子をお聞きしました。八坂村誌や閉校記念誌に載っている歴史と併せて、多くの人に伝えたい歴史がまだありそうだと分かりました。

これからのやさかの時間では、八坂の小中学校の歴史を分かりやすく整理し、当時の校舎の内部を模型で再現したいと考えています。



地元食材で八坂を元気にしよう — 地元食材料理グループ —



料理大好き女子5人のグループで、いろいろな料理を作っています。これまでに、八坂で採れる食材を使って、「そば粉うすやき」「そば粉ホットケーキ」「そば粉クレープ」「そば粉クッキー」「そば粉どらやき」「そば粉アイスクリーム」「よもぎクレープ」「たけのこごはん」「たけのことサバのみそ汁」「たけのこの天ぷら」「桑の実のパウンドケーキ」「えごまドレッシング」などを作ってきました。

料理にたどり着くまでには、新鮮なよもぎを求めて田んぼのあぜ道を歩き回ったり、みんなでかかえきれないほどのたけのこを採ってきて下処理をしたり、草ぼうぼうの川原でギリギリまで手を伸ばして桑の実を採ったりと、けっこう苦労もありました。

1日やさかの日には、これまでに学校周辺で採って保存しておいた物を使い、班ごとに料理をしてたけのこづくしの昼食を作ったり、それぞれが工夫を凝らしたそば粉料理を作ったりしました。一日中ひたすら、いろいろな料理を作り、試食し、片付け、また作り……を続けました。へとへとになりましたが、大変充実した1日でした。そば粉を使った料理は、そば粉の分量を多くするとどうしても料理が冷めたときに固くなってしまいうのが難しいところです。

今は、八坂で採れる食材でどんな物が作れそうかをいろいろと試している段階ですが、今後、自分たちで作った料理を地域の方々にどんな形でふるまっていけるかを考えていきたいと思っています。(

< 成果 >

- ・ 地域の方と直接関わりを持つことから、八坂地区のことをより詳しく知り、活動のめあてや追究内容が具体化した。
- ・ 生徒と共に、教師も学んでいく場面が多く見られた。生徒と教師が一緒になって追究していく総合の時間となっていた。

< 課題 >

- ・ 昨年度までの総合の時間は楽しく活動するという雰囲気が抜けず、八坂地区の現状や今後の発展に目を向けるところまでは行かなかった。来年度は、地域のあり方や発展に関わる提案にまで踏み込める追究を目指していきたい。
- ・ 生徒主導で進んでいく追究でありたいが、教師が生徒に学びを委ねてしまうのではなく、生徒がどのような学びの道筋を歩んでいくか、生徒有り様を見る目を養っていく必要性を感じた。

姉妹都市立川市との中学生サミット

平成 28 年 7 月 16 日(土)、17 日(日)、大町市内 4 校の中学生が、姉妹都市である立川市を訪れ、同市の中学生と 1 泊 2 日の日程で交流活動を行いました。

1 日目は、まんがパークや古民家園、極地研究所等で体験活動を、2 日目はらぽーと立川立飛で両市の紹介や交流の成果を発表し、両市の特産品の販売も行いました。

2 日間の交流活動を通し、かけがえのない友情が育まれ、将来、両市の交流リーダーとして活躍していくための基礎となる経験を積むことができました。



立川市との交流について

「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」は平成 26 年の大町市市制施行 60 周年・合併 10 周年の記念式典で、立川市の中学生が吹奏楽を演奏したことをきっかけに始まりました。翌 27 年度には立川市の中学生を大町市に招き、今年度は大町市の中学生が立川市を訪れました。両市の中学生が寝食を共にして交流を図り、その成果を発信する…わずか 2 日間の交流でしたが、昨年度、生徒たちが作りあげた「共同宣言」のとおり、心をつなげて活動し、両市の交流の未来につながる充実したサミットとなりました。

大町市では 1991 年に立川市と姉妹都市提携を結びました。両市の未来のため、今後も交流を深めていきます。そのためには一つ一つの小さな交流を続けるとともにその交流の輪を広げることが必要です。

「姉妹都市中学生サミット」はその起点となるとても素敵な交流となりました。

一つ、私たちはこの中学生サミットを通し、これからも立川市と大町市の交流をより深め、ほかの地域に発信していくことを誓います。

一つ、私たちは両市の未来、都市と農村の共存について考え続けて行くことを誓います。

一つ、私たちは交流活動を通して得た、互いの市の特徴を生かし、さらなる発展に努めることを誓います。

一つ、私たちは離れていても互いの助け合いの心を忘れないことを誓います。

以上、ここに集う立川市と大町市の中学生 36 名の総意として、宣言いたします。

平成 28 年 7 月 19 日

主催 立川市教育委員会
大町市教育委員会

大町市市民活動サポートセンターの紹介

～中学生・高校生のみなさんと、地域や行政との橋渡しを担います～

市民活動サポートセンターでは、自治会・市民活動団体のサポートをしています。

また、市役所に何か相談ごとがあるときは、まずのぞいてもらう窓口でもあります。

気軽にのぞいて情報をゲットしてください。あなたもまちづくりに参加したくなるかも…

中学生・高校生大歓迎です。

つなげよう！

咲かせよう！

大町市では、市民の皆さんに積極的にまちづくりに参加していただくため「市民参加と協働のまちづくり」を推進しています。市民活動サポートセンターは、市民の皆さんの自主的な地域づくり活動や自治会活動を応援します。

情報収集

パンフレットスタンド
掲示板・インターネットで
情報収集！

応援します！
きらり★輝く
市民活動

情報発信

市ホームページ・CATV
マスコミ各社へ
活動情報を発信！

相談

自治会の悩みや
団体の各種相談、
助成金情報の
提供等

大町市
サポセン^{って}
どんなところ？

サポセンに登録すると…
さまざまなサービスをご利用いただけます♪
(自治会は登録の必要はありません。)

※営利のみ・政治活動・宗教活動を目的とした
活動団体は除きます。

場の提供

事務作業や
ミーティング、
交流の場に！
(10人程度)

資料の作成

印刷機等
事務機器の利用

機器の貸出

パソコン・液晶プロジェクター
ロールスクリーン・AED
ポータブルアンプ
(要予約)

*コピー機 (A4・A3・B5・B4)

白黒：1枚 10円

カラー：1枚 50円

*印刷機

製版代：1枚 40円

インク代：最初の10枚まで 10円、

10枚以上は1枚 1円

(ただし、10円未満切り捨て)

※用紙は各自ご用意下さい。

*その他

パソコン・紙折り機・裁断機 (無料)

【開所時間】

*平日

午前 8 時 30 分
～午後 5 時 15 分

*夜間開所 (要予約)

毎週月曜日・木曜日の
午後 8 時まで

※当日午後 3 時までに
ご連絡ください。

(祝祭日は行いません)

大町市市民活動サポートセンター

(大町市役所西庁舎 1 階)

〒 398-8601 大町市大町 3887 番地

TEL 0261-22-0420 (内線 830・831)

FAX 0261-85-0763

E-mail: shiminkatudou@city.omachi.nagano.jp

お気軽に
お立ち寄り
ください

発 行 2016 年 12 月 10 日

特定非営利活動法人 ぐるったネットワーク大町

〒398-0002 長野県大町市大町 1559 番 4

TEL 0261-85-0556 FAX 0261-85-0557

協 力 大町市立第一中学校 大町市立仁科台中学校

大町市立美麻小中学校 大町市立八坂中学校

この冊子は平成 28 年度独立行政法人環境再生保
全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました

